

## 観賞樹苗の簡易鉢栽培試験

## (1) 鉢用土の種類、詰め方と生育について

三 善 重 信

(福岡県立農業試験場)

MIYOSI, S.

Study on the Method of the Simple Pot Culture to the  
Nursery Stock of Ornamental Tree

## (1) Effect of the Variety of Soil and Mixing Ratio on the Growth

苗木の簡易鉢栽培において、用土の種類、混合比、詰め方、かん水量等が生育におよぼす効果を検討するため、入手容易な育苗用土や混合資材を用い、かん水の自動化による省力育苗法を昭和48年度から昭和49年度にわたり検討した。

## 試験方法

間供試樹種は48年度カイヅカイブキ、シャリンバイ、サツキ。49年度カイヅカイブキ、クルメツツジ、クジャクヒバ、ドウダンツツジの各2年生苗を供試。鉢用土は畑土(火山灰壤土)、水田土(沖積砂壤土)、山赤土(花崗岩壤土)7割。混合資材、ピートモス、麦わら、軽石(セメント副産物)、発泡スチロール粉末、粗がら、のこくず、3割を混合使用。次年度は、初年度の結果、生育良好となった混合用土を選定して更に検討を継続した。

鉢の種類はポリエチレン鉢および素焼鉢を主とし、畑作露地栽培と比較した。なお露地地区は不熟堆肥を表層に施用し、雑草防止に稲わらを株間被覆した。鉢栽培は日平均春秋期5ミリ、夏期10ミリ目標のかん水を行なった。

## 試験結果及び考察

昭和48年度 1. カイヅカイブキ、シャリンバイの生育は、鉢栽培よりも露地栽培が勝ったが、サツキはむしろ鉢栽培がよかった。2. 鉢の種類間では、ポリエチレン鉢より素焼鉢の生育が勝った。3. 鉢用土は、主用土を水田土とした場合、畑土より概して生育よく、山赤土はやや劣った。4. 混合資材は三樹種ともに、ピートモ

ス、麦わら、粗がらがよく、発泡スチロール粉末、軽石、のこくずは生長量がやや劣った。

昭和49年度 1. カイヅカイブキを除く、クルメツツジ、クジャクヒバ、ドウダンツツジの生長量は鉢栽培区が露地地区に勝った。2. ピート混合によるポリエチレン鉢、素焼鉢間の生長量差はほとんどないが、麦わら、粗がら混合用土のポリエチレン鉢は、素焼鉢に勝る生育であった。3. 鉢栽培におけるかん水適量は、樹種や鉢用土で差異があるが、当該試験の範囲では、カイヅカイブキ、クジャクヒバ、クルメツツジは、夏期10ミリ、春秋期5ミリの散水で最も生育よく、ドウダンツツジは、夏期8ミリ、春秋期4ミリが最もよい生育を示した。4. 鉢用土の三相調査によると、畑土を主用土とした場合気相率は、麦わら>粗がら>ピートの順で高く、孔隙率は麦わら区が最大であった。

第1表 鉢用土の三相調査(樹種ドウダンツツジ)

鉢及び用土の種類	気相率	固相率	液相率	真比重	孔隙率
	%	%	%		%
露地標準(畑栽培)	36.3	21.0	42.7	2.6	79.0
ポリ鉢畑土ピート	21.7	36.0	42.3	2.5	63.9
〃 水田土ピート	16.3	34.0	49.7	2.5	66.0
〃 畑土粗がら	27.6	30.5	41.9	2.5	69.5
〃 畑土麦わら	31.6	25.4	43.0	2.5	74.6
素焼鉢畑土ピート	43.1	22.8	34.1	2.5	77.2

以上の結果を各樹種の生長量と相関して思考すると、ことにポリエチレン鉢の場合、概して気相率が高く、孔隙率の高い鉢用土が、生長量をよくするようであった。